日本顔学会誌十巻一号

顔の印象評価におけるメーキャップと笑顔度の影響

Effects of Make-up and Smile Intensity on Evaluation for Facial Impressions

髙野ルリ子

Ruriko TAKANO

E-mail : ruriko.takano@to.shiseido.co.jp

和文要旨

笑顔とメーキャップは、コミュニケーションにおいて重要な手がかりを提供する。両者は顔の印象評価に影響し合い、笑顔については強度も影響することが報告されている。本研究ではメーキャップが顔の魅力および印象に及ぼす影響を、笑顔の強さに着目し検討した。

20代の女性2名の素顔とメーク顔の各々について、真顔、唇を閉じ口角を大きく上げた笑顔、歯を見せ口角を最大に上げた笑顔を元画像とし（順に笑顔度0%、80%、120%と定義）、モーフィングによる画像を加え、笑顔度が20%ずつ上昇するよう統制した画像を刺激とした。評価者は20代の男性と女性、各30名だった。

因子分析による検討から、笑顔度とメーキャップの影響に因子別の特徴を見出した。『好感・魅力』は笑顔度に伴い得点が増加したが、笑顔度120%で減少した。『気品・美しさ』は笑顔度60%を最高値とし、以降は低下した。メーク顔が素顔の得点を上回ったのは、『魅力・好感』では笑顔度80%と100%、『気品・美しさ』、『華やか・清楚』はすべての笑顔度でだった。『華やか・清楚』の素顔では笑顔度の影響が顕著であった。以上から、笑顔度とメーキャップのいずれの影響が顕著かは印象により異なった。また、メーキャップはおおむね笑顔度が得た評価に相乗的に影響し、笑顔度はその度合いと印象とにより、促進的または抑制的に関与する双極の影響があるとがわかった。また、笑顔度とメーキャップの評価の背景には、表情過般化効果と成熟性過般化効果が影響したことも示唆された。

キーワード : 表情、化粧、笑顔度、印象、モーフィング

Keywords : facial expression, make-up, smile intensity, facial impressions, morphing

1. 緒言

顔の印象は、コミュニケーションの重要な手がかりを提供する。

Ekman [1] は顔の情報源を4つにグループ化し、それらのサインから顔の印象や性格、性別や年齢、感情変化などのメッセージが伝達されるとした。4つのサインとはstatic signs（骨格や顔立ちなど不変的なもの）、slow signs（加齢によりゆっくりと変化するもの）、rapid signs（顔の動きや赤面など一瞬で変化するもの）、artificial signs（化粧や美容整形など人工的なもの）である。Ekmanのサインに準拠すれば、顔の印象とサインとの関係は、次のように整理できる。性別の印象はstatic signsから、年齢印象はslow signsから、感情状態や性格はrapid signsから判断される。Ekmanも示唆するが、artificial signsは美観の評価にも影響を与える。

実際に、年齢の印象にはしわが [2]、男性性や女性性には眉と目の間の距離や眉の面積 [3] のstatic signsが関連することが報告されている。static signsはさらに多様な印象にも影響を与える。鈴木ら [4] は顔の長さや目の大きさといった顔の形態印象を10因子に整理し、それらと印象因子との関係を示した。形態因子と印象因子とには、正または負の関係が示され、たとえば肌のきれいさは洗練度にはプラスに、活発さにはマイナスに寄与した。

Ekmanは前記4つのサインは偽装も変更も可

株式会社資生堂　ビューティーソリューション開発センター、Shiseido Co., Ltd. Beauty Solution Development Center